

資料配布の場所・日時

1. 筑波研究学園都市記者会(資料配布)
2. 国土交通記者会(資料配布)
3. 国土交通省建設専門紙記者会(資料配布)

日時：平成27年5月13日(14:00)



平成27年5月13日

(国研) 土木研究所

(発表企業名)

NAV 工法研究会(会長：白山裕/電気化学工業(株)、会員：国立研究開発法人土木研究所、鹿島建設(株)、オリエンタル白石(株)、カジマ・リノベイト(株)、電気化学工業(株))

(担当者)

電気化学工業(株) インフラ・無機材料部門 特殊混和材部 栗林 完
連絡先：03-5290-5137(TEL) 03-5290-5085(FAX)

(件名)

補修後もコンクリート表面のひび割れ等が見えるはく落防止工を開発
「NAV-G工法・NAV-G工法(UV仕様)」

(内容)

別紙および添付資料(NAV-G工法・NAV-G工法(UV仕様)パンフレット)

(発表時期)

平成27年5月13日 14時

問 い 合 わ せ 先

(国研) 土木研究所

道路技術研究G トンネルチーム 上席研究員 砂金 伸治

総括主任研究員 石村 利明

電話 029-879-6791(直通)

補修後もコンクリート表面のひび割れ等が見えるはく落防止工を開発
「NAV-G 工法」・「NAV-G 工法 (UV 仕様)」

NAV 工法研究会 (会長: 白山裕 / 電気化学工業(株)、会員: 国立研究開発法人土木研究所、鹿島建設(株)、オリエンタル白石(株)、カジマ・リノベイト(株)、電気化学工業(株)) は、今般、補修後もコンクリート表面のひび割れ等が見えるはく落防止工「NAV-G 工法」・「NAV-G 工法 (UV 仕様)」を開発した。

「NAV 工法」は国立研究開発法人土木研究所、鹿島建設(株)、電気化学工業(株)の共同研究によってトンネル内の覆工コンクリートを対象として補修後もコンクリート表面のひび割れ等が可視化できるはく落防止対策工法として開発されたものであり、特殊な繊維シートをアクリル樹脂で貼り付ける繊維接着工法である。使用する繊維シートは柔軟性に富むため、出隅、入隅への追従性に優れているとともに、繊維シートを接着するアクリル樹脂はコンクリートとの接着性、速硬化性、低温硬化性に優れるため、特に冬季や寒冷地では工期短縮が可能である。

従来のはく落防止対策工法では繊維シートや塗布する材料によってコンクリート表面の状態が判断しづらかったが、本工法では透明なFRP層を形成し、ひび割れの進展や変状の目視を容易にし、補修施工後の維持管理に役立つものであり、これまで広く適用されてきた。

今般、「NAV 工法」の耐火性のさらなる向上を図るため、難燃性の高い繊維シートに変更を加えた「NAV-G 工法」を開発した。さらに近年においてはトンネル坑口や坑門部等の明かり部のコンクリート構造物においても補修対策後の継続的なモニタリングに対する要望が増している。そこで、特殊な耐候性塗料を塗布することで、可視性を確保しながら明かり部での使用に際し問題となる紫外線による樹脂の劣化を防ぐことができる「NAV-G 工法 (UV 仕様)」を開発するに至った。

今後、本研究会では本工法の普及活動を通じ、インフラ整備事業への貢献を目指す考えである。